

ソケイヘルニア（通称 脱腸）

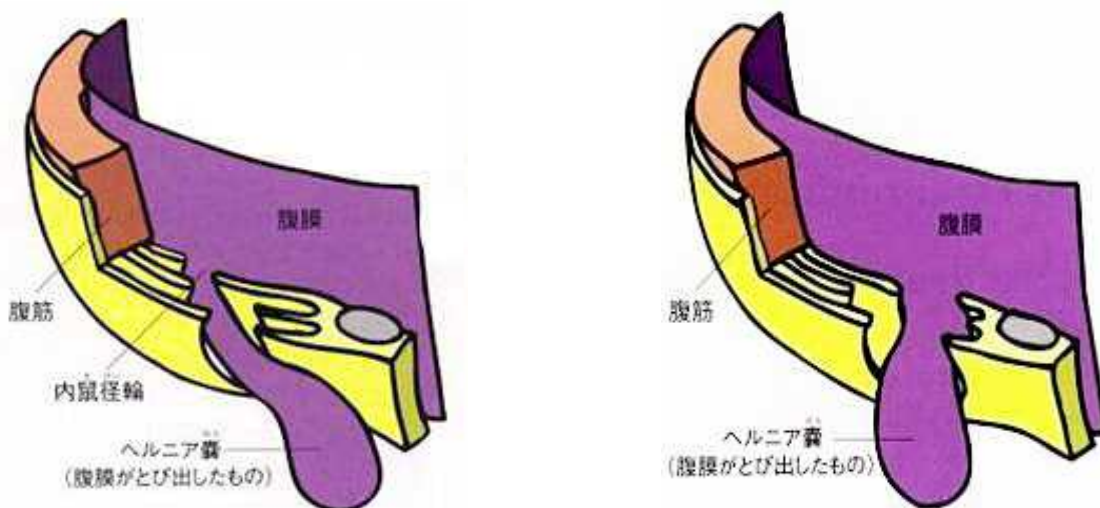
ヘルニアとは、体内の臓器が生まれつきあった孔もしくは後から生じた孔から脱出して、本来あるべき正常な場所以外へはみ出してくることを言います。この現象が脚の付け根付近で生じるものに“鼠径ヘルニア”“大腿ヘルニア”が挙げられます。

症状

立ち上がった時腹部に力を入れると鼠径部（脚の付け根）が膨らみ、男性の場合大きなものでは陰嚢付近まで達するものもあります。この膨らみは押さえたり体位変換をすると消える場合もあり、その際に軽い痛みや突っ張り、便秘が起きることがあります。強い痛みなどはありませんが、飛び出したまま戻らなくなると腸が腐ってしまうこともあるため、手術が必要です。

種類

鼠径ヘルニアには2種類あります。お腹の中から内鼠径輪を通して小腸などが出てくるヘルニアを“外鼠径（間接）ヘルニア”、内鼠径輪を通らずに直接小腸などが出てくるヘルニアを“内鼠径（直接）ヘルニア”と言います。（内鼠径輪から男性では精索が、女性では子宮円靭帯がお腹の中から出ています。）鼠径ヘルニアの多くは外鼠径ヘルニアで、身体の右側に多く見られる傾向があります。



当病院では、弱くなって出てきた腹膜を処理し、メッシュプラグや PHS（プロリン・ヘルニア・システム）を利用し、小腸などがはみ出そうとする圧力を内側から“栓”をし、ヘルニアが再発するのを防ぎます。

再発率が Mesh Plug 法で 8.2%、PHS 2.2%といわれています。麻酔法は主に腰椎麻酔にて行っていますが、左右両方にある方や、他に病気があるなど腰椎麻酔より全身麻酔が安全と考えられる方には全身麻酔や、局所麻酔で行っています。入院期間はクリニカルパスを利用し、平均5日程度の入院となっていますが、さらに短期間の入院を御希望のときは御相談させていただきます。